

賀國白山の麓に來り居住し、小弓に短冊をつけて歌占を行つたが、その子幸菊丸が尋ね來て遷遁したことを作つたものである。伴信友の正卜考に、伊勢度會郡二見郷三津村に度會家次の裔があつて、歌占の弓といふものを藏してゐることを記し、歌占の謠曲は件の家次がその占に名高かつたから作つたものであるとしてゐる。

ウタウラノスミヨシ 歌占の任吉 ↓タキノミヤ 瀧宮。

ウタウラノタキ 歌占瀧 石川郡河内庄白山村に在る。往來道より二軒許東方へ入つた所で、高さ六米。この水は中島との界を流れる大谷川の末である。又住吉宮あるが故に住吉瀧ともいふ。白山宮藏延文二年十一月遷宮記に『文保三年九月二十日夜瀧宮御遷宮。祭神住吉四座。歌占に在り。』とあるから、歌占の瀧の名も古い。寶永誌には『昔此所に歌占をする者居たり。故に歌占の瀧と呼べり。此の布瀬より一町許下に住吉社あり。其の社の邊に居て歌占をなしたる由いひ傳ふ。』と記されて居る。

ウタスジンジャ 宇多須神社 もと金澤卯辰山一本松附近に鎮座してゐたのを、慶長中に至つて山路參拜に便ならざるを以て、今の八幡町に移し、舊社を御旅所とした。世に之を卯辰の毘沙門といつたが、明治中宇多須神社に改めた。宇多須は卯辰山の古名である。

ウタスママ 宇多須山 河北郡に在る。應安二年十二月得江次郎季員申軍忠狀に、『今年九月七日御敵攻寄宮殿之間、同九日當所御發向之時御共仕候處、凶徒即引退大野宿

須山之間、同十五日被責落彼城。』とある。宇多須山は後世遷つて卯辰山となつたものである。

ウタツ 卯辰 河北郡小坂庄に屬する部落。ウタツギオンシヤ 卯辰祇園社 金澤鷺町に在つた。眞言宗福壽院世々別當を奉仕したが、明治元年神佛混淆禁止の後、復飾して神職となつた。祇園社は今松尾神社となつてゐる。

ウタツギオンマチ 卯辰祇園町 金澤の舊町名。鷺谷の地であるが、そこに祇園社があるから世人は祇園前とも呼んだ。後文政四年二月郡地の一部を町地に屬せしめた時、卯辰村領祇園前を卯辰祇園町といふことにした。今は鷺町に屬する。

ウタツキマチ 卯辰木町 金澤の舊町名。昔はこゝに材木の問屋等の居住する所であつた。四筋あるから四丁町とも四丁木町ともいふた。今は木町何番丁と稱する。

ウタツシユウ 卯辰集 二冊。金澤の俳人北枝編。元祿四年卯月京井簡屋庄兵衛・金澤三ヶ屋五郎兵衛の兩板。鶴來の楚常が集めて置いたのを、その歿後北枝が増補したものである。上巻は蕉門諸家の發句、下巻は北枝・曾良・芭蕉の三吟歌仙以下連句を載せる。巻尾に元祿四年卯月日加陽庶人北枝と記し、句空の序を附してあつて、二人の共著と見るべきものである。外題は句空の草庵が卯辰山に在つたに因る。

ウタツジンジャ 卯辰神社 金澤卯辰山中もと鷺崎といつた所に鎮座した。慶應三年前田慶寧が卯辰山開拓の際、四月山上の土

澤御殿鎮守の天満宮を發し神幸あり。翌年卯辰神社と稱した。後明治四十年豐國神社をここに合併し、社號を豐國神社とした。

ウタツシンメイシヤ 卯辰神明社 ↓イツミノジンジャ 泉野神社。

ウタツスガハラジンジャ 卯辰菅原神社 もと金澤卯辰茶屋町の鎮守で、愛宕三番丁に在る。藩主十二世前田齊廣の時即ち文政三年三月初めて公然遊廓の開業を許されたから、關係者は一社を建立して藩侯を祀り、天満宮と稱し、且其の時の國老・奉行にして茶屋町創立に關係の者をも相殿の神靈として祀つたに起る。當社の祭神は今菅原大神・稻荷大神とする。

ウタツタイ 卯辰靈 金澤卯辰山の麓なる愛宕町邊から油木山の邊にかけて、惣名を卯辰靈と呼んだ。この地はもと河北郡卯辰村の所屬であつたので、今も卯辰某町といふ町名が多く残つてゐる。

ウタツテラマチ 卯辰寺町 金澤卯辰靈附近はもと凡べて卯辰寺町と呼んだが、後そのうちに種々の町名を生じ、寺町の名は絶えた。

ウタツノジン 卯辰の寺院 前田利常の時、金澤の城下に散在して居た寺院を、犀川口は泉野、淺野川口は卯辰山の麓に移されたといひ、今も卯辰靈には寺院が甚だ多い。三靈記・菅家見聞集等皆このことを元和二年に係けてゐる。

ウタツハチマングウ 卯辰八幡宮 金澤八幡町もとの宇多須神社の南隣に在つた。初め前田利長は越中射水郡守山鳥帽子峰に鎮座した八幡社と、同郡阿尾の柳葉神明宮を崇敬してゐたが、利家死去の後それを金澤に移すと

稱し、實は利家の靈を祀つたのであつた。明治六年之を西町金谷御殿の地に移し、社號を尾山神社と改めた。卯辰八幡の舊社地は宇多須神社の併合する所となり、次いでその位置に社殿を造築した。

ウタツフクロマチ 卯辰袋町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、如來寺町の次に卯辰袋町を載せてある。この町名は後までもあつたと見えて、享和三年の金澤町名附にも、木綿町の下に卯辰袋町・元如來寺町の二町名が見える。

ウタツマチ 卯辰町 金澤淺野川大橋の爪から北少許の間をもと卯辰町と呼び、それから森下町に繼いだ。古へ卯辰村の地内に屬してゐた爲であらう。後この町名を廢し、凡べて森下町に屬せしめた。

ウタツヤマ 卯辰山 卯辰山は古名宇多須山の譌である。一に臥龍山ともいふが、それを上杉謙信が命名したといふことに就いては、確實な證據がない。元祿・享保の比では茶臼山の名が専ら用ひられ、元祿十二年十二月廿三日申刻に崩壊して三十一人を壓死せしめ、淺野川の流を塞いだ時にも、茶臼山崩れといはれて居た。後世は専ら向山とのみいひ、それに接續して觀音山・愛宕山・摩利支天山・春日山等の小名を有する。慶應三年前田慶寧は山上開拓の土工を起し、一時繁華の域となつたが數年にして衰微し、後明治十三年その中八萬七百餘坪を市街地に編入し、四十年改修を加へて市有公園とした。

ウタツヤマカイタク 卯辰山開拓 慶應三年前田慶寧は、福澤諭吉が著した西洋事情を編いて、外國に於ける貧民救済と病院設備の

同十二日夜御敵攻寄宮殿之間、同九日當所御發向之時御共仕候處、凶徒即引退大野宿

須山之間、同十五日被責落彼城。』とある。宇多須山は後世遷つて卯辰山となつたものである。

澤御殿鎮守の天満宮を發し神幸あり。翌年卯辰神社と稱した。後明治四十年豐國神社をここに合併し、社號を豐國神社とした。

稱し、實は利家の靈を祀つたのであつた。明治六年之を西町金谷御殿の地に移し、社號を尾山神社と改めた。卯辰八幡の舊社地は宇多須神社の併合する所となり、次いでその位置に社殿を造築した。